

平成30年8月23日（木）
愛知県政策企画局国際課国際戦略グループ
担当 浅田、齋藤
内線 2256、2399 タイヤルン 052-954-6130
愛知県振興部航空対策課利用促進グループ
担当 上原、大久保
内線 2281、2282 タイヤルン 052-954-6133

知事の東南アジア渡航中の行事結果について

8月22日、知事はタイにおいて、ソムキット副首相、アッサウイン バンコク都知事、アーコム運輸大臣と面談しました。

1 ソムキット副首相との面談（担当課：国際課）

(1) 日時

8月22日（水）13:30～14:15（日本時間 15:30～16:15）

(2) 場所

首相府

(3) 面談者

ソムキット・チャトウシーピタック副首相

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋商工会議所 山本会頭、（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港(株) 友添社長、ジェトロ名古屋 梶田所長、ジェトロバンコク 小篠次長

(5) 内容

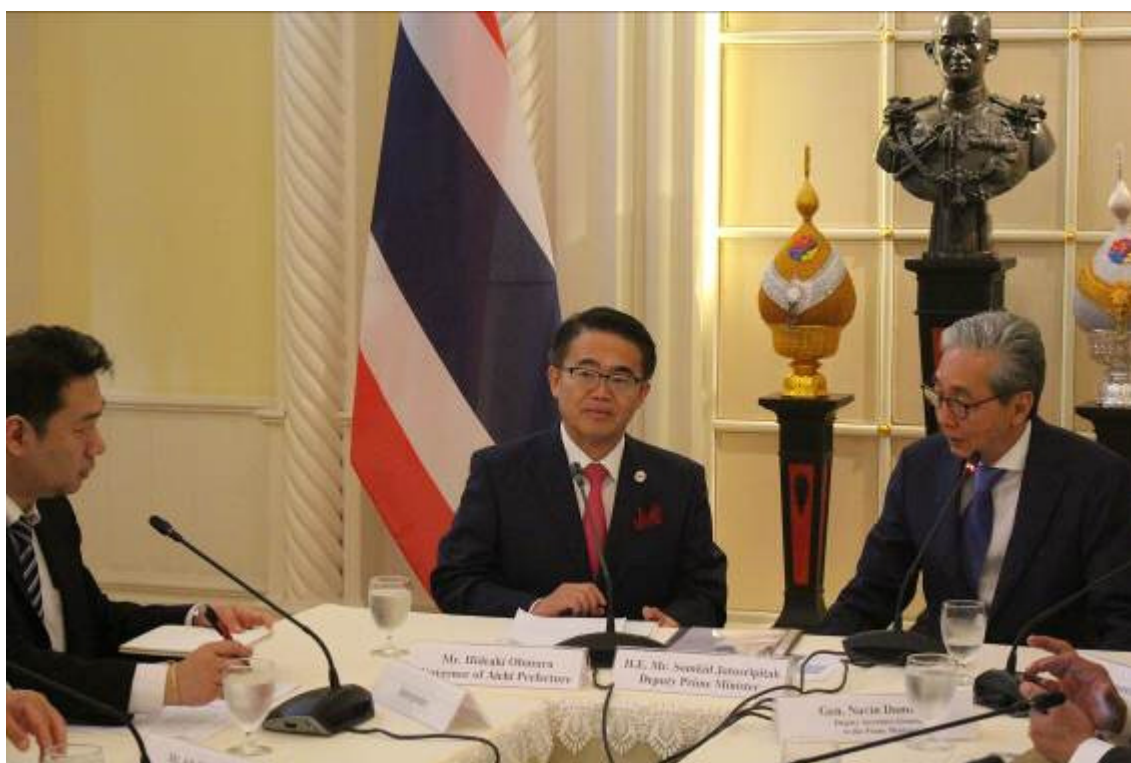
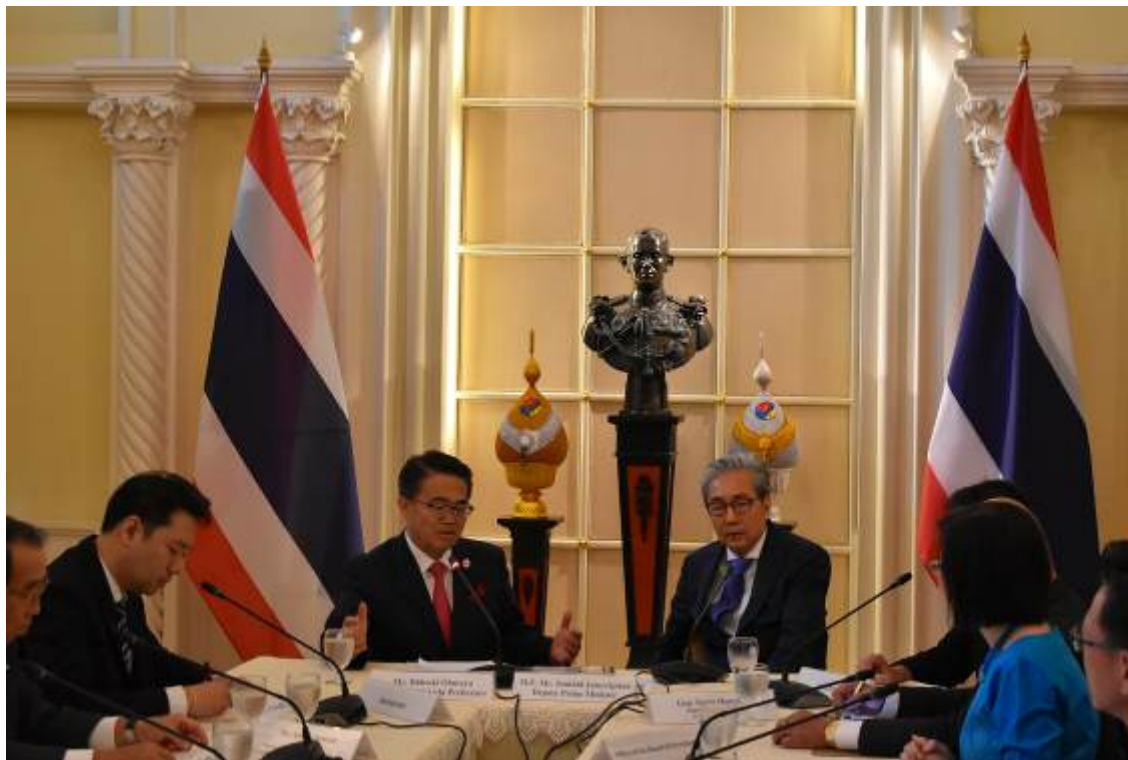
大村知事は、「愛知県からタイへは約450社が進出、ここ5年で約20%増加しており、トヨタ、デンソーを始めとする愛知県の企業が、日本からタイへの投資の三分の一以上を占めている。タイでは、「タイランド4.0」に基づいて産業の高度化を目指していると聞いており、協力しながら一緒に発展していきたい。先月の副首相の来日の際に名古屋で開催された経済セミナーには800人以上が参加するなど、愛知県企業のタイへの関心は高い。愛知県は、2014年にバンコク産業情報センターを開設し、工業省との経済連携のMOUを締結した。また、2012年にはバンコク都と相互協力を進めるMOUも締結しており、今後も様々な関係を深めていきたい。今回は、タイ国際航空や運輸省を訪問し、セントレアへの直行便の拡充をお願いしており、その支援も賜りたい。」と述べた。

ソムキット副首相からは、「タイ経済の上半期の成長率は4.8%であったが、さらなる成長のためには日本企業からの投資が必要である。経済構造を改革し、産業の高度化を目指すために「タイランド4.0」を進めており、IT、IoT、AIなどの分野を発展させたいと考えている。タイ各地に設置している産業技術支援拠点（ITC：インダストリー・トランスフォーメーションセンター）に対しても、愛知県の経済界の皆様からのご協力をお願いしたい。愛知県は自動車などの製造業が発展しているが、加工食品や農業の分野も発展している。多くの日本企業のタイへの投資を促すため、BOI（タイ投資委員会）の人員を増員し、日本企業の要望に応えることができるよう相談体制を強化していく。セントレアへの直行便については、知事がタイへ来られる前に私からタイ国際航空へ増便あるいは機材の大型化について提案しておいたので、心配なくてよい。この秋からはLCCのエアアジアXも就航する予定であり、人的な交流を促進していきたい。」と発言があった。

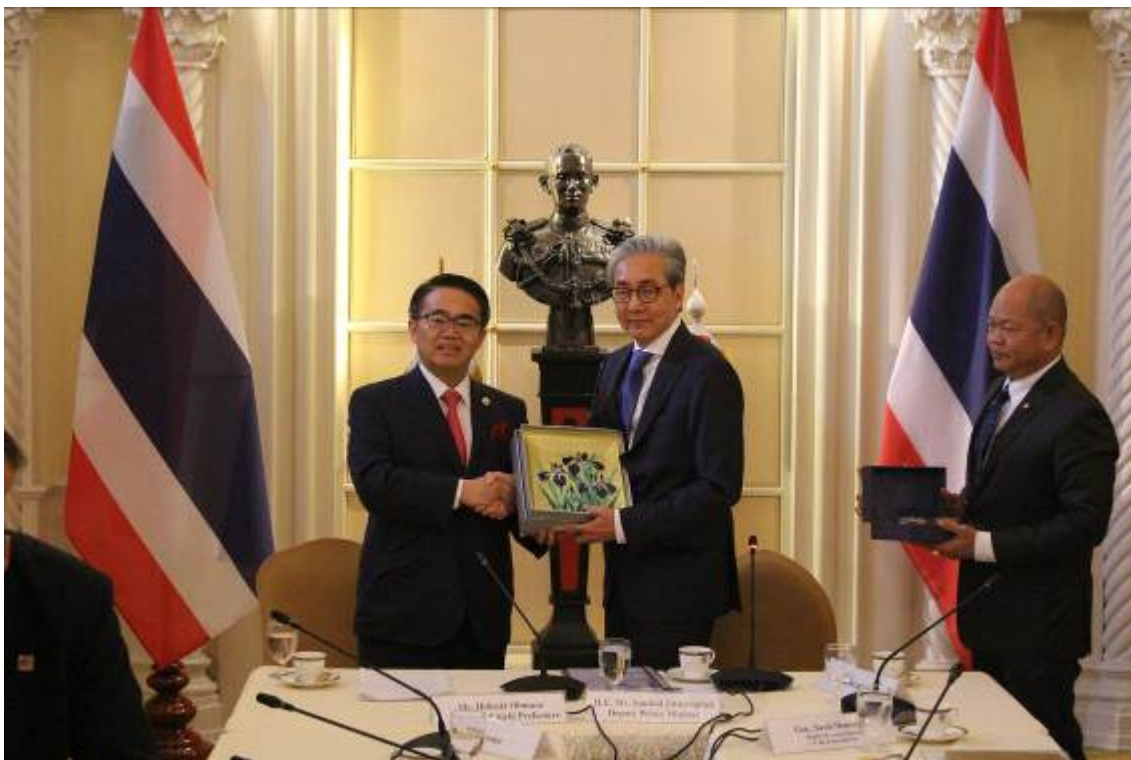
これに対し、大村知事は、「本日午前中にウッタマ工業大臣と面談した際に、産業技術支援拠点について有意義な説明を受けた。今後、自動車産業におけるコネクティビティや環境への対応など、産業の高度化を進めることが重要であり、

タイ政府と協力して取り組んでいきたい。R&D や人材育成の面でも協力できることがあると考えており、タイの大学との連携も進めていくことができればと思う。日本とタイ、愛知県とタイの関係がますます発展していくように、これからも緊密に連携を進めていきたい。」と述べた。

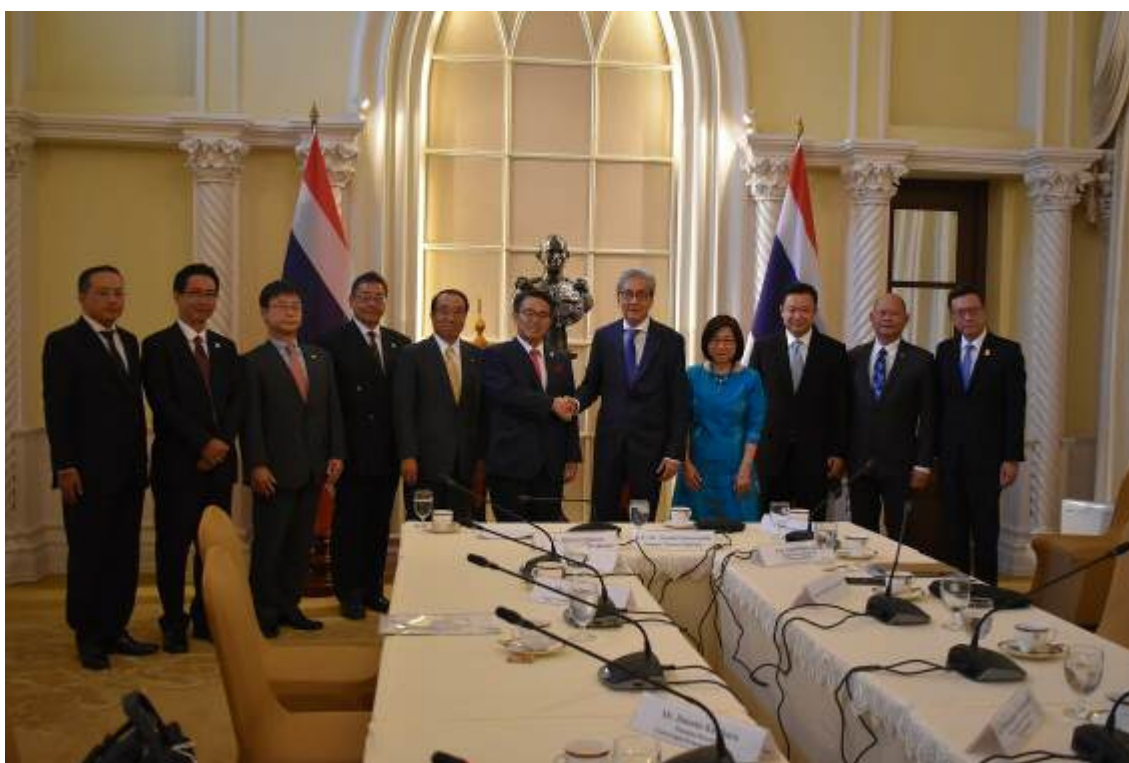
[ソムキット副首相との面談風景]



[大村知事とソムキット副首相]



[愛知県側とソムキット副首相等]



2 アッサウイン バンコク都知事との面談（担当課：国際課）

(1) 日時

8月22日（水）14:45～15:20 （日本時間 16:45～17:20）

(2) 場所

バンコク都庁

(3) 面談者

アッサウイン・クアンムアン知事

クリアンヨット副知事

タマラット顧問 等

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋商工会議所 山本会頭、（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港(株) 友添社長、ジェトロ名古屋 梶田所長

(5) 内容

大村知事は、「初めてお会いできて嬉しい。バンコク都とは、2012年に「相互協力に関する覚書」を締結以来、着実に交流を重ねてきた。特に高校生の交流は活発であり、これまで行っている高校生訪問団の相互派遣をきっかけに、愛知県の高校がバンコク都の高校と継続的に交流をしていきたいとの意向を持っている。アッサウイン知事には是非こうした取組にもご理解とご支援をいただきたい。」と述べ、高校同士の交流への支援を確認する文書を手渡した。

また、「愛知県は自動車、航空宇宙、ロボットなどの分野で日本一の産業集積があり、愛知県からタイへは450社が進出し、ビジネスも活発である。これからは様々な分野で交流を深め、良い関係をさらに発展させていきたい。アッサウイン知事にも是非愛知へお越しいただきたい。」と述べた。

アッサウイン知事からは、「大村知事始め、経済界からもたくさんの方にお越しいただき感謝する。両地域の高校同士の交流については、しっかり支援・協力していく。加えて、バンコクでは看護生徒の教育が足りないので、大学の看護学部同士の交流も盛んにしていきたい。また、愛知県とはMOU締結以来、若い世代を中心に交流を深めてきたが、これからは他の分野でも交流をしていきたい。日本には水の地下貯蔵やゴミ処理など優れた技術があるので、是非参考にしたい。」と発言があった。

[アッサウィン知事との面談風景]



[大村知事とアッサウィン知事]



[高校同士の交流への支援を確認する文書を手渡した]



3 アーコム・トゥームピッタヤーパイシット運輸大臣との面談（担当：航空対策課）

(1) 日時

8月22日（水）16:45～17:30 （日本時間 18:45～19:30）

(2) 場所

運輸省

(3) 面談者

アーコム・トゥームピッタヤーパイシット運輸大臣 他

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋商工会議所 山本会頭、（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港㈱ 友添社長、ジェトロ名古屋 梶田所長

(5) 内容

大村知事、地元経済団体及び中部国際空港会社から、愛知県からタイへは多くの企業が進出していること、日本からタイ、タイから日本の双方向で多くの観光客が往来していること、また、タイから中部地域を訪れる観光客増加の取組を進めていることを説明し、ビジネス・観光での往来を支える中部－バンコク直行便の拡充の支援を要請した。

これに対し、アーコム運輸大臣からは、中部－バンコク間の路線拡充については、最大限努力し、できるだけ便数を増やしていきたい旨の回答があった。また、タイの航空各社の検討状況について以下の説明があった。

- ・タイ国際航空：先月にダブルデイリー化したところであり、今後の需要や機材の状況を踏まえ、更なる拡充を検討する。
- ・タイ・エアアジア X：本年10月30日より毎日1便の就航が決定している。
- ・タイのLCC各社：今後、新規就航について相談していきたい。

さらに、アーコム運輸大臣は、観光需要の底上げについて、「タイ、日本両国で互いの魅力をアピールし合うのは大変良いことで、しっかりやっていくべき。タイではここ数年、日本への観光ブームが起こっている。観光需要をしっかり作っていけば、将来的には、バンコクだけでなく、タイの他の都市への直行便就航の可能性もある。」と発言された。

アーコム運輸大臣との面談の様子



アーコム運輸大臣への記念品の贈呈



面談参加者全員による記念撮影

